

2018年度 GLIP 英語科目 イマージョン合宿 報告書

1. 概要

- ・出張経費...【補助金】スーパーグローバル大学創成支援
- ・研究課題...GLIP 英語科目「英語 A1」 “English Immersion Camp”
- ・開催地...大学セミナーハウス（東京都八王子市下柚木 1987-1）
- ・日程...2018年7月17日～20日
- ・参加人数...学生21人 / 担当教員1人（Matthew Ryczek） / アシスタント6人

2. 実施日程表

7月17日（火）

10:30 スタッフ・ミーティング
11:30 セミナーハウス前に全員集合
12:00-13:00 昼食
13:00-13:30 自由時間
13:30-18:00 授業
18:00-19:00 夕食
19:00-22:00 自由時間
22:00 就寝

7月18日（水）

7:00 起床
7:30-8:30 朝食
8:30-9:00 自由時間
9:00-12:00 授業
12:00-13:00 昼食
13:00-13:30 自由時間
13:30-18:00 授業
18:00-19:00 夕食
19:00-22:00 自由時間
22:00 就寝

7月19日（木）

7:00 起床
7:30-8:30 朝食
8:30-9:00 自由時間
9:00-12:00 授業
12:00-13:00 昼食
13:00-13:30 自由時間
13:30-18:00 授業
18:00-19:00 夕食
19:00-22:00 自由時間
22:00 就寝

7月20日(金)

7:00 起床

7:30-8:30 朝食

8:30-9:00 自由時間

9:00-12:00 授業

12:00-13:00 昼食

14:30 現地解散

3. 実施内容

今年度のイマージョン合宿では、例年と同様に主にスピーキング能力にフォーカスした授業計画に沿って授業がおこなわれた。参加学生の英語レベルは中級から中上級までである程度の開きがあったが、グループワークにおいて異なる英語レベルの学生同士が協力してタスクにあたり、互いに高め合うことができるように配慮した。また、各グループにアシスタントが加わり、ディスカッションなどが円滑におこなわれているか点検するとともに、学生の活動に加わり、すべての参加者が積極的に発言できるような環境をつくるような配慮がなされた。

学生は初日はやや緊張しているようであったが、担当教員やアシスタントのサポートによって次第に打ち解け、すぐに全員が積極的に活動に参加するようになった。とくに、参加者全員がネームプレートを身に着け、お互いの名前を呼びやすくすることによって、知らない者同士であっても積極的に会話しやすくするという工夫がなされた。

担当教員であるマシュー・ライチェック先生は、英語によるプレゼンテーションやディスカッションに必要なスキルを学生が段階的に身に着けることができるように配慮された授業進行をおこなった。最初に、英語による簡単なゲームをクラス全体でおこない、学生同士が打ち解け合いお互いを知ることによって、その後の授業がより円滑に進むようにした。初日から2日目にかけての授業では、プレゼンテーションやディスカッションで頻繁に用いられる **function phrases** を取り上げ、学生が実際に口に出して練習しながら自分で使えるようにペアワークやグループワークが繰り返された。同じフレーズであっても、様々な異なるシチュエーションで用いることができるよう、授業内で反復練習をする機会を学生は多くもつことができた。

2日目から3日目にかけては、身に着けたスキルを実際を使って学生それぞれがプレゼンテーションをおこなうことを目標に、いくつかの具体的なトピックについて担当教員がレクチャーをおこない、関連する資料のリーディングとディスカッションをおこなった。今回はとりわけジェンダーやナショナリズムに関わる諸問題を取り上げ、学生が自らの興味・関心、また自身の経験に基づいてプレゼンテーションを組み立てることができるような下地を授業内で提供した。また、具体的なトピックを扱うさいにも、学生により馴染みのある話題からまず議論を始め、次第にアカデミックかつ専門的な分野に進んでいくことで、学生の興味を持続させる配慮がなされた。

最終日には、学生全員が実際にプレゼンテーションをおこない、他の学生やアシスタントがコメントや質問をして内容についてのディスカッションをおこなった。1人あたり15分の持ち時間が与えられ、またそれぞれのプレゼンテーションに対する

フィードバックやディスカッションをおこなうための時間も確保されたため、参加者全員が学習の成果を十分に実践することができた。

4. アシスタントによる授業補助

今回のイマージョン合宿では6人のアシスタントが参加し、担当教員と協力しながら学生のサポートにあたった。留学生やELCアドバイザーに加えて、男性と女性の日本人アシスタントも1人ずつ参加したことで、英語によるコミュニケーションに自身のない学生や同性のアシスタントによるサポートが必要なケースにも柔軟に対応することができた。

授業内では、グループワークのさいにそれぞれのグループにアシスタントが1人加わることによって、すべての学生に配慮された学習環境を維持することができた。また、食事や自由時間のさいにも、アシスタントが積極的に学生と英語でコミュニケーションを取ることによって、英語のみを使用するという本イベントの主旨をより徹底することができた。

すべての参加者が全日程を終えることができたが、合宿の途中でストレスにより体調を崩した学生が出たさいには、アシスタントが施設の担当者やGLIP担当者と連携しながら迅速に適切な対応をとったため、学生はすぐに回復しその日のうちに授業に復帰することができた。授業内外においてアシスタントがすべての学生の様子を注視し、積極的にコミュニケーションを取っていたため、合宿をとおして重大な問題が起こるのを防ぐことができた。

5. 写真

- ・グループワークの様子



・クラス全体でおこなうアクティビティの様子



・参加者全員の集合写真



・担当教員とアシスタントの集合写真



以上

GLIP 英語科目コーディネーター
相木 裕史